



その5

開発建設部

羽地ダム試験湛水開始

平成十三年七月三日、羽地ダムの試験湛水が開始されました。米軍の計画立案から実に三十五年、今、ようやくダム湖が姿を現そうとしています。



湛水開始ボタンの押下

北部ダム事務所が沖縄県名護市の羽地大川に多目的ダムとして建設を進めている羽地ダムで試験湛水が開始されました。

当日は、天候にも恵まれ、梅雨明けの沖縄に本格的な夏の到来を告げるような日差しと蝉の鳴き声が響く中、ダム堤体右岸の平場に設けられた会場において地元関係者、沖縄総合事務局、沖縄県、名護市、工事関係者多数の出席の元、湛水式が執り行われました。

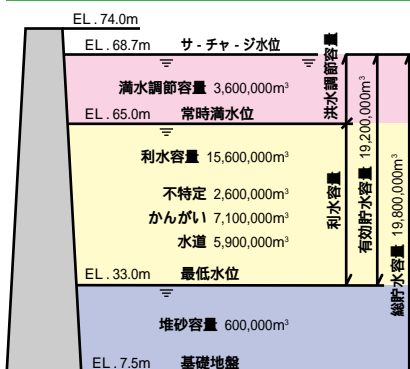
式典では、北部ダム事務所長、沖縄総合事務局次長の式辞、沖縄県技監、名護市長、地元代表者および施工者代表者からの祝辞を頂きました。橋本次長は「地元の方のご理解と関係された方々の努力のたまものである」と感謝の意を表し挨拶を行いました。その後、取水塔前において北部ダム事務所副所長の「湛水開始」の合図とともにゲートのスイッチが押され、地元関係者等によりくす玉が開かれるなか、引き続き、技術管理官の音頭により出席者の万歳三唱で湛水式典は無事終了しました。会場の横では、パネルおよび取水塔模型が展示され、「日本初の空気口ツク式取水設備」の仕組みについて多くの方が質問する場面も見受けられました。

九月に入る現在、貯水池の状況としては、湛水開始後も晴天の日が続き、時折、亜熱帯性気候特有のスコールが降りますが、貯留水が増えるまでには至らず、なかなか思い通りにはいつていない状況です。台風頼みとなりそうな模様ですが、なるべくは、徐々に増えてほしいと願う今日この頃です。

これまで羽地ダムは、日本初の空気口ツクによる取水設備をはじめとして、放流設備への引張りラジアルゲートの採用、放流水エネルギーにより製造した圧縮空気の利用などあらゆる技術開発、コスト削減に取り組んできました。環境対策の面でも、赤土の流出防止対策や、各種調査を基に、生態系に与える影響を極力少なくするための対策を講じています。また、名護市街地近郊という立地条件から、地元の地域振興の面でも新たな観光資源としての期待が大き、ダムの完成が待ち望まれているところです。

羽地ダムは、完成すると沖縄県では福地ダムに次ぐ二番目に大きい貯水容量を有するダムとなります。今後は試験湛水の確実な進捗と周辺整備等の工事を実施し、平成十六年度の完成を目指していきます。

貯水池容量配分



堤体右岸より

位置：(左岸) 沖縄県名護市宇田井等地先
(右岸) 沖縄県名護市宇親川地先
形式：中央コア型ロックフィルダム

堤高	66.5m
堤頂長	198m
堤体積	1,050,000m³
集水面積	10.9km²
湛水面積	1.15km²
総貯水容量	19,800,000m³
有効貯水容量	19,200,000m³
設計洪水位	EL. 71.5m
サーチャージ水位	EL. 68.7m
常時満水位	EL. 65.0m